



「172のころ」

「先生今日ね、お手紙書いてあるよ！」とニッコリしながら登園した日のこと。

お手紙？何のお手紙かなあ…と言葉にしていると、「優しいこと書いてあるよ！」とおしえてくれました。

ん？優しいこと？と考えながら、保護者の方が付箋に書かれていた内容を見ると、年末年始で体験したことや、家庭でお手伝いをしたり、人に優しくできたことに成長を感じましたと書かれていました。

「優しいことが書いてあるよ」その言葉がとても印象的でした。ご家庭できっと、嬉しいよ、ありがとう、すごいね、などたくさんの言葉をかけてもらい、この子にとってそのような言葉として表現されたのだろうか…と感じた朝でした。





大切な大切なお子様を、信じて任せて頂きありがとうございます。2024年も、私たち職員一同、
“TheOne”の理念のもと、子どもたち一人ひとりの「第2の（第1はもちろんおうちの方です）安心して居られる
居場所」になれるよう、言成に言成表、努めていきます!
おうちの方の願いは私たちの願い。一人ひとりの幸せな育ちを、保護者様と共に支えていけたらと
思います。本年もどうぞよろしくお願い致します😊

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく
お願いいたします。さて、新たな年を迎え、園では全学年参加の
保育初め式が行われました。年中、年長さんによる干支の由来
の劇とお正月遊び披露。それぞれの発表の後、「(見てくれて)
ありがとうございました。」という年中、年長さんのご挨拶を
聞いた未満見さんたちが、誰に促されたわけでもなく「(見せ
てくれて)ありがとう。」と答える姿がありました。新年早々、
子どもたちの想いが響き合う素敵な時間となりました。

以前、ある保護者様が「当たり前」の反対言葉は何か分かる?
とお子様に尋ねられ、しばらく悩んでいたお子様に「当たり前
の反対は有難い、だよ。」と話されているのを耳にしたことが
あります。

私たちにとっての当たり前。それは、朝、隣で眠っている我
が子の姿。お気に入りの歌を聴きながら園に送り届ける時間。
仕事もお友だちと仲良く遊んでいるかな、と思出す小さな
姿。お迎えの時、見せてくれるとびきりの笑顔。一緒に食べる
夕食と甘いおやつ。今日あったことを耳元でお話してくれる、
ゆっくりと流れるお風呂の時間。最初は冷たかった布団が親子
の温度で温まっていく夜。静かな寝息を聴きながら、また迎える
夢の続き。

しかし、令和6年能登半島地震を目の当たりにし、こんな日
常は当たり前ではないと思い知らされました。そして私たちに
何が出来るのか悩み、その末にたどり着いた小さな答え。それは
皆様の大切なお子様を朝お預かりした瞬間から、腕のなかへ
とお戻りするその瞬間まで、安全に、安心していただける居場所
となるよう、徹底して取り組むこと。そして今日も目の前で笑っ
ているお子様の、そのままの姿を守り抜くこと。私たちはこの
2つを揺るぎない基盤とし日々の教育・保育に邁進することを
お約束します。

正和福祉会職員一同、今回震災に遭われた地域の1日も早い
復興と、そこで暮らす方々の何気ない日々が一刻も早く戻って
くることを心よりお祈り申し上げます。

